

年齢社会からの脱却 多様な高齢者の承認

人の活躍 ワーキング・グループ

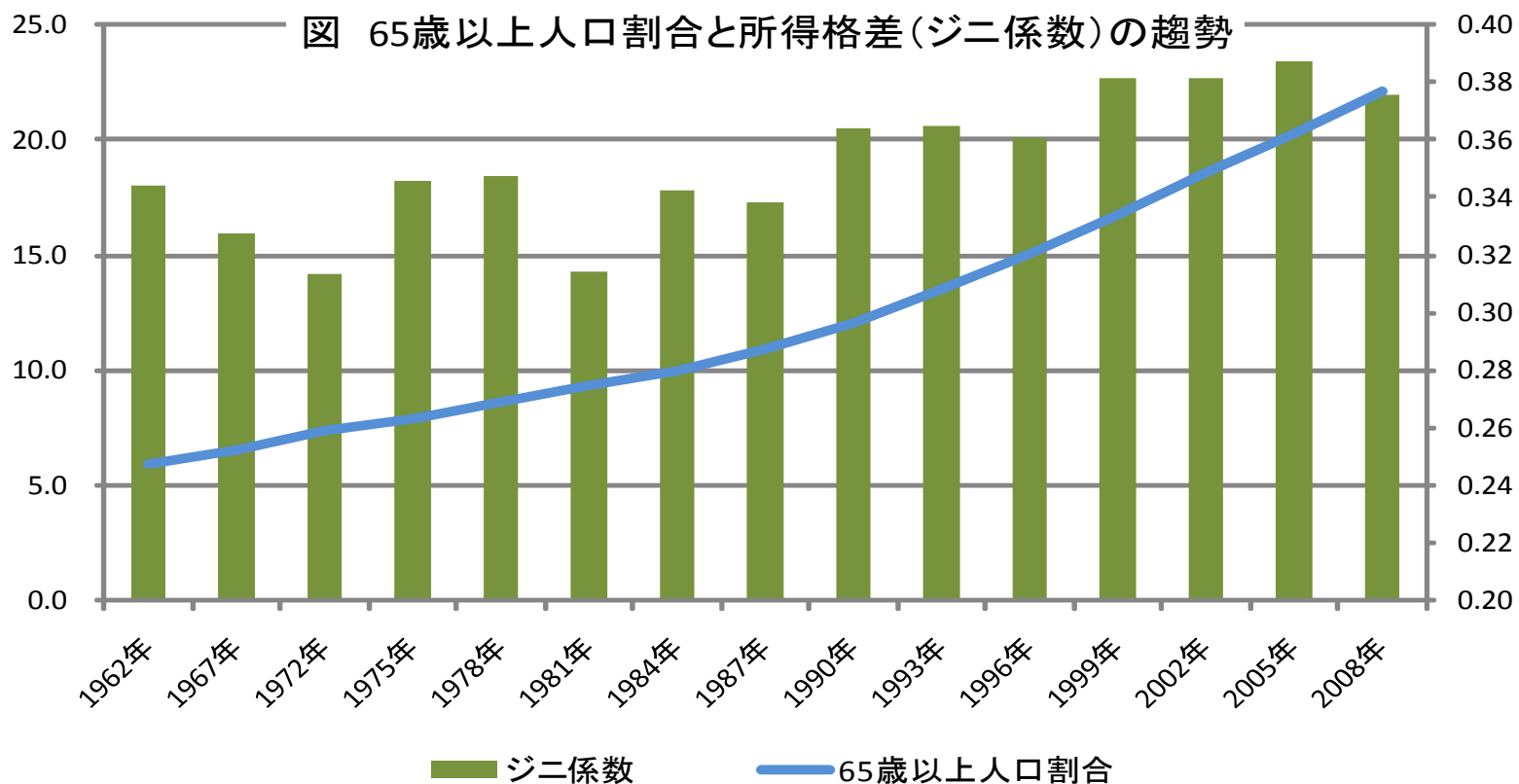
2014年5月27日(火)

白波瀬 佐和子 (東京大学)

選択する未来を高齢者の観点から考える

- 50年後の高齢者を考えることは、いまの子どもたち、若者たちの未来を語ること.
- いまの高齢者を考えることは、未来の高齢者像を考える際の貴重な基礎材料となる.
- 生まれて成人し、高齢者にいたる人生の軌跡の集大成が高齢期
 - ライフコース (Elder 1975) という考え方は、人生の軌跡はその背景にある時代の影響を受けて構築されていくことに着目する.

所得格差拡大の背景にある人口高齢化



出所)ジニ係数:「再分配調査結果概要」(各年、厚生労働省)

65歳以上人口:「国勢調査」(平成7年まで)、「人口推計」(平成8~14年まで)(以上、総務省)

「日本の将来統計人口」(平成17年以降)(国立社会保障・人口問題研究所)

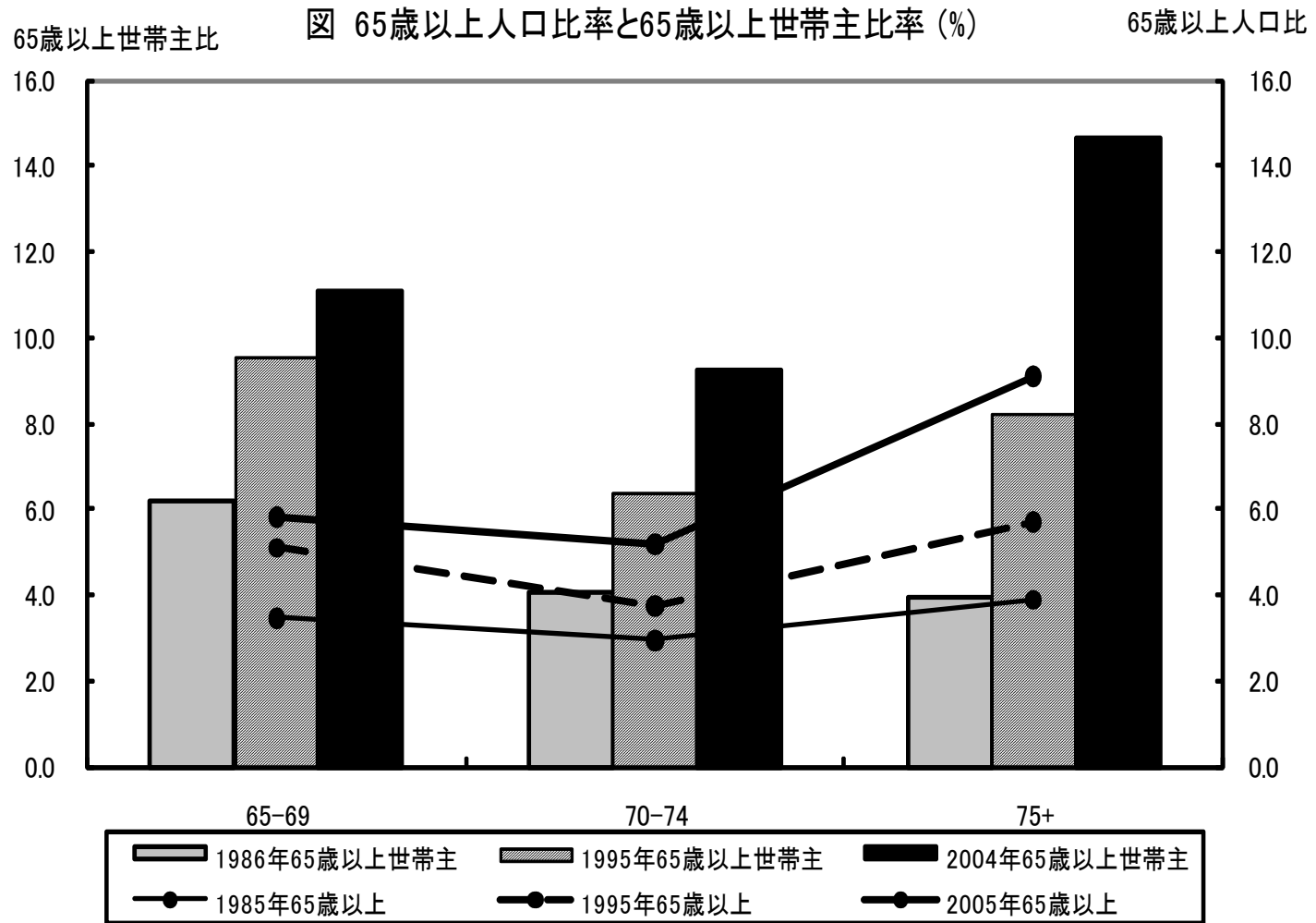
注)ここでのジニ係数は、再分配所得をもとに算出されている。再分配所得とは、当初所得(雇用者所得、自営所得、農耕・畜産所得、財産所得、家内労働所得、雑収入、仕送り等の私的給付)から税金、社会保険料を控除し、社会保障給付(現金、現物)を加えたもの。

人口高齢化と世帯主の高齢化の違い

出典) 白波瀬2011年「高齢層の経済格差—世帯構造と資産に注目して—」日本社会学

会報告

人口高齢化よりも世帯の高齢化が著しい。高齢者のいる世帯は2007年時点で全世帯の47.5%に上る。その背景には、晩婚化に伴う離家の遅れと、高齢者のいる世帯サイズの縮小がある。

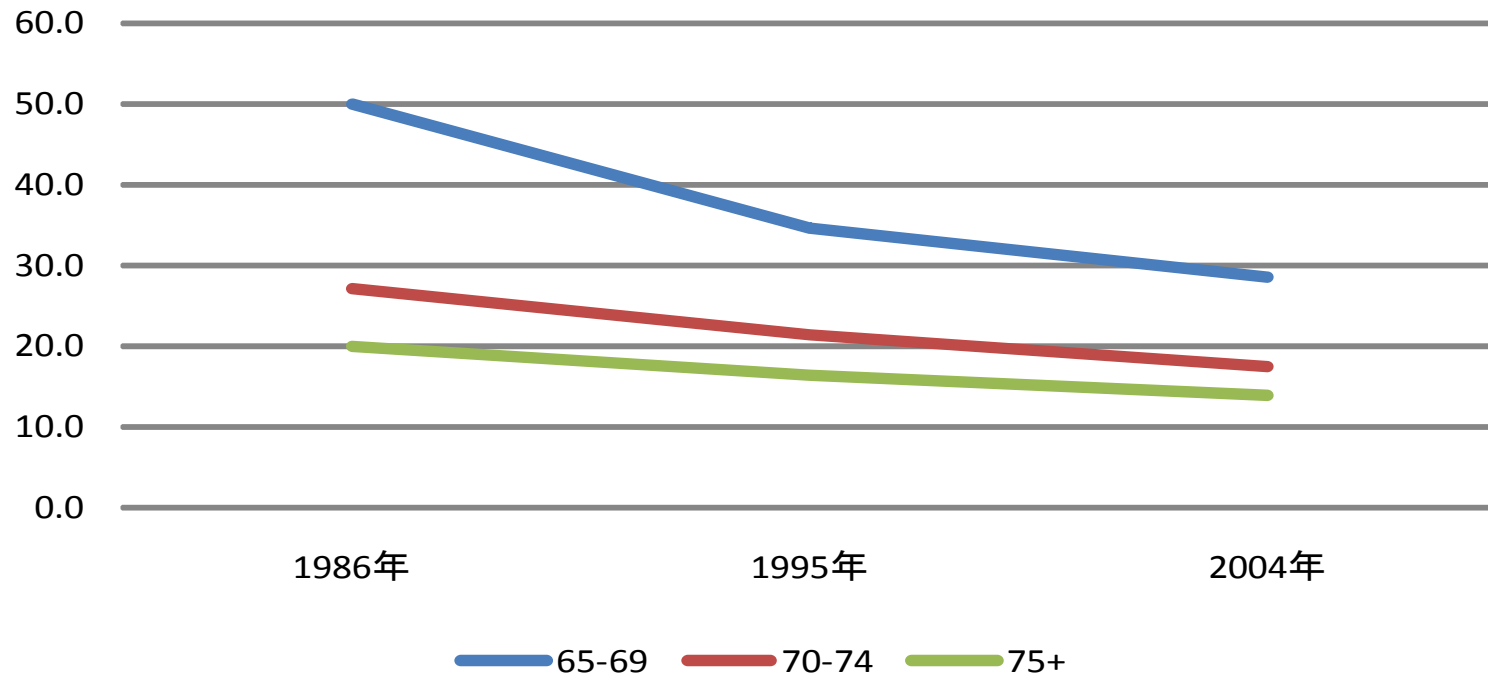


出所) 65歳以上世帯主割合: 国民生活基礎調査, 65歳以上人口比: 国勢調査

高齢世帯主になるにつれて雇用収入割合が低下し、年金をはじめとする社会保障給付費割合が上昇する。このことが、高齢層の経済格差の縮小に貢献する。

出典) 白波瀬2011年「高齢層の経済格差—世帯構造と資産に注目して—」日本社会学会報告

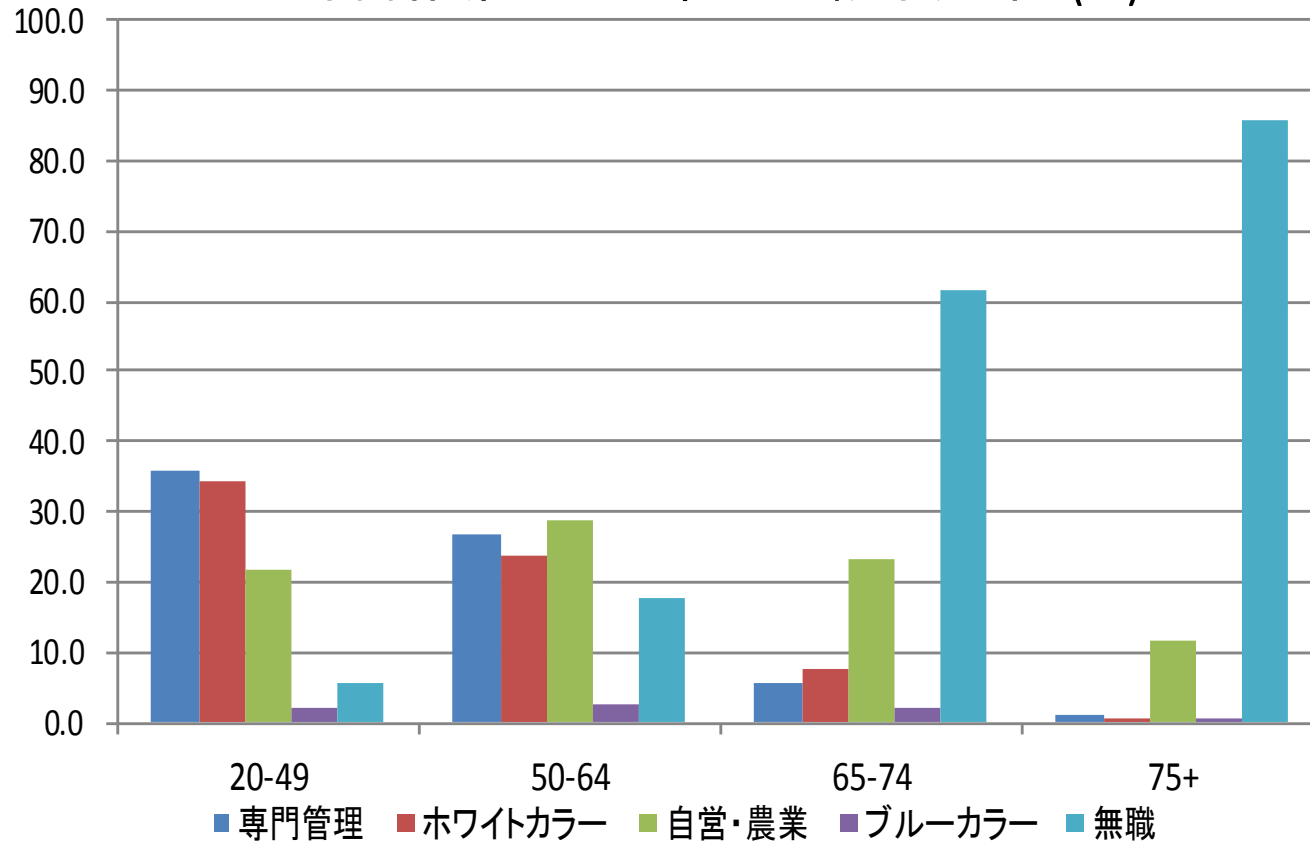
図 高齢世帯主層の雇用収入割合 (%)



出所) 国民生活基礎調査(各年)

注) 世帯収入に占める雇用収入割合

図 年齢階層別 世帯主の職業分布 (%)

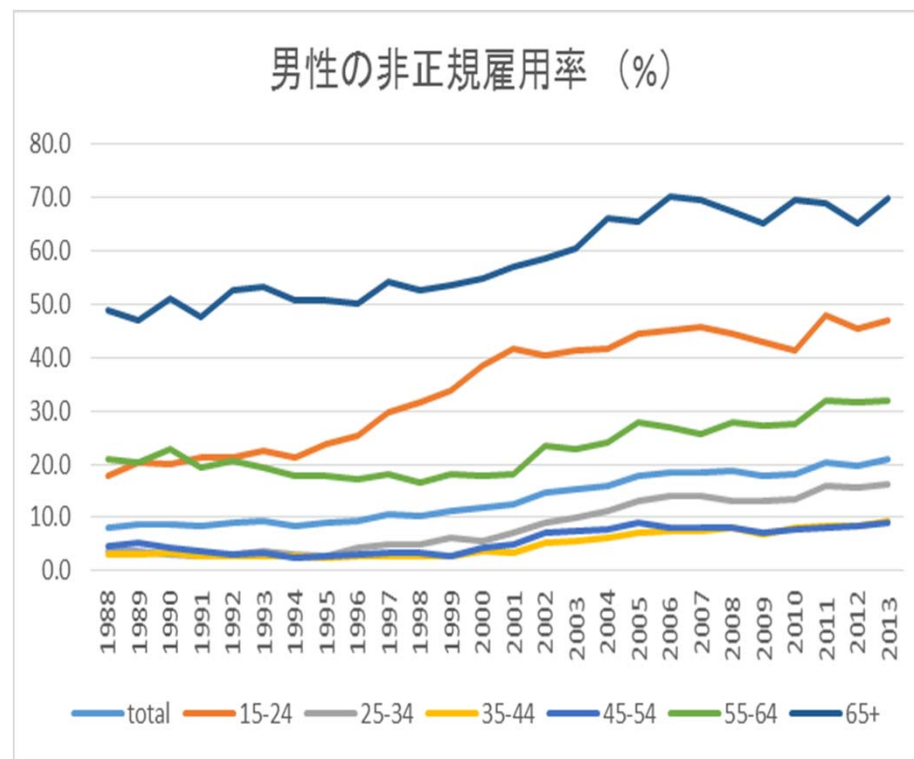
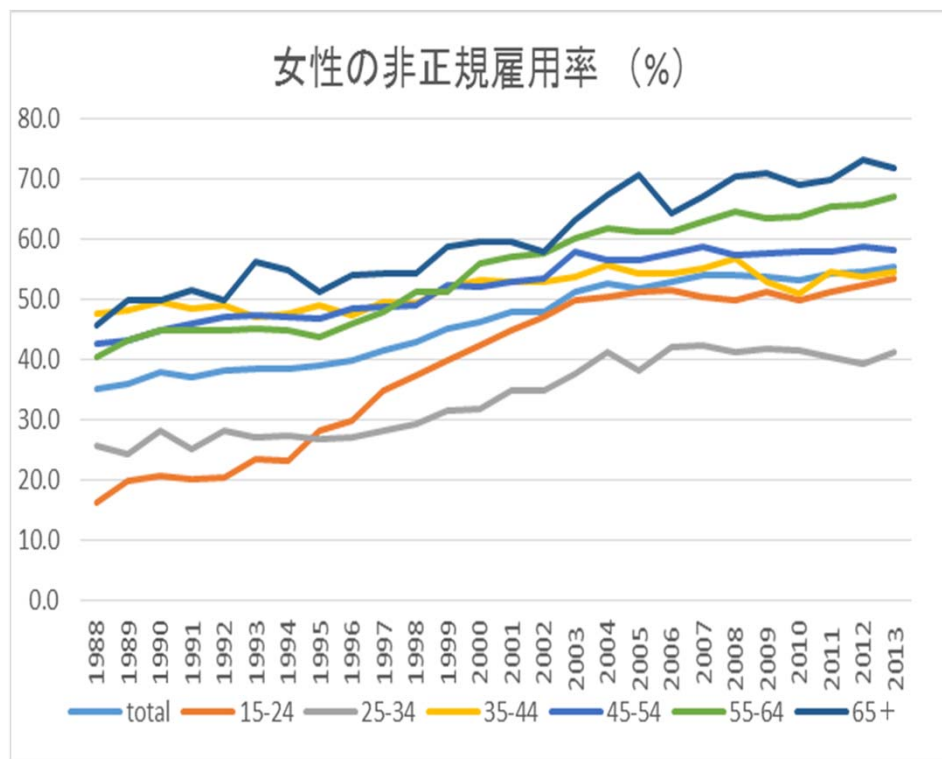


出所)2010年国民生活基礎調査

白波瀬・竹内『国民生活基礎調査 基礎集計結果』(2013年)より作成

男性の間では、若年層と高齢層の間での非正規雇用率が急激に上昇

出所)労働力調査 長期時系列表3より作成 (<http://www.stat.go.jp/data/roudou/longtime/03roudou.htm>、2014年5月6日アクセス)



40代、50代が抱える生活の苦しさ

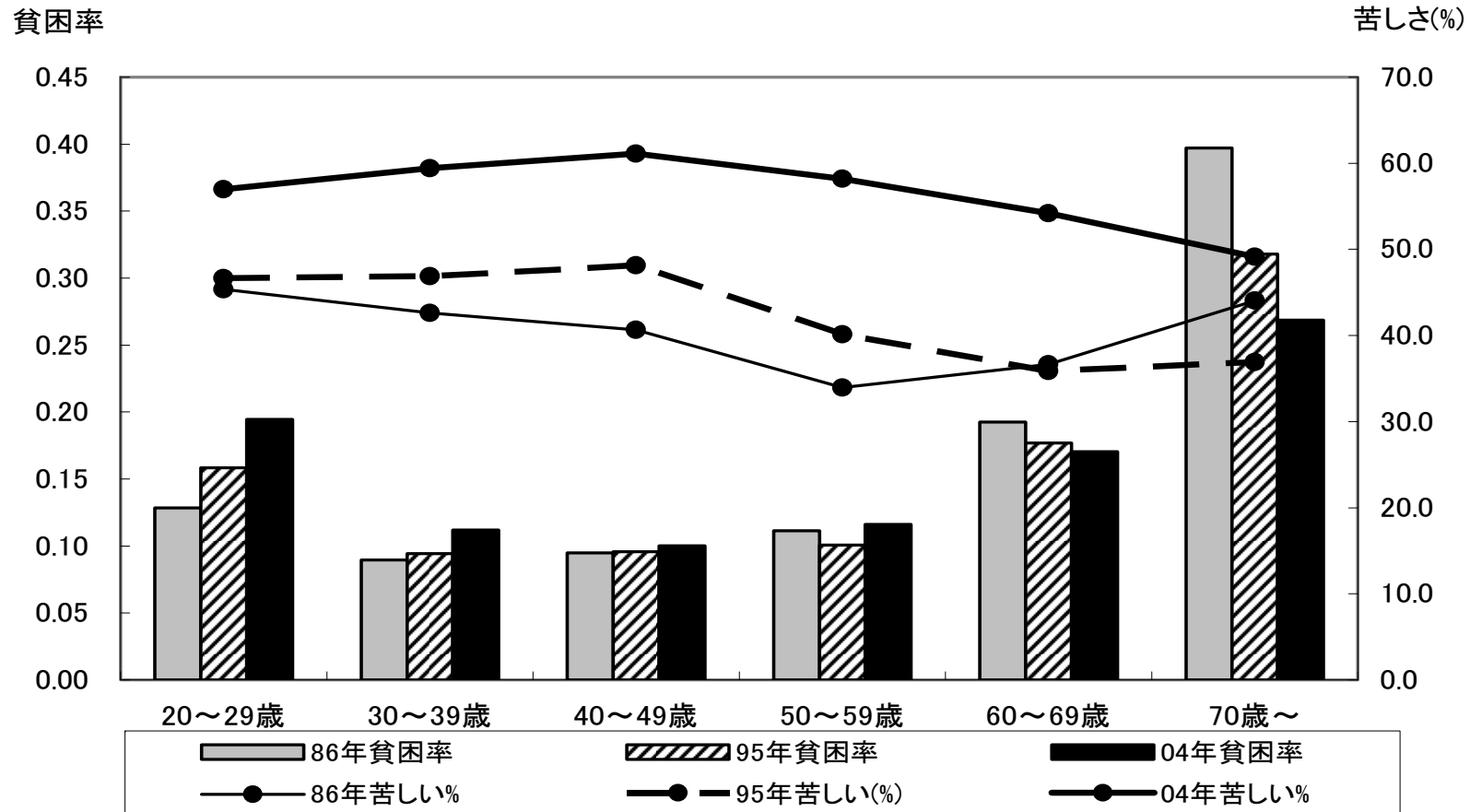
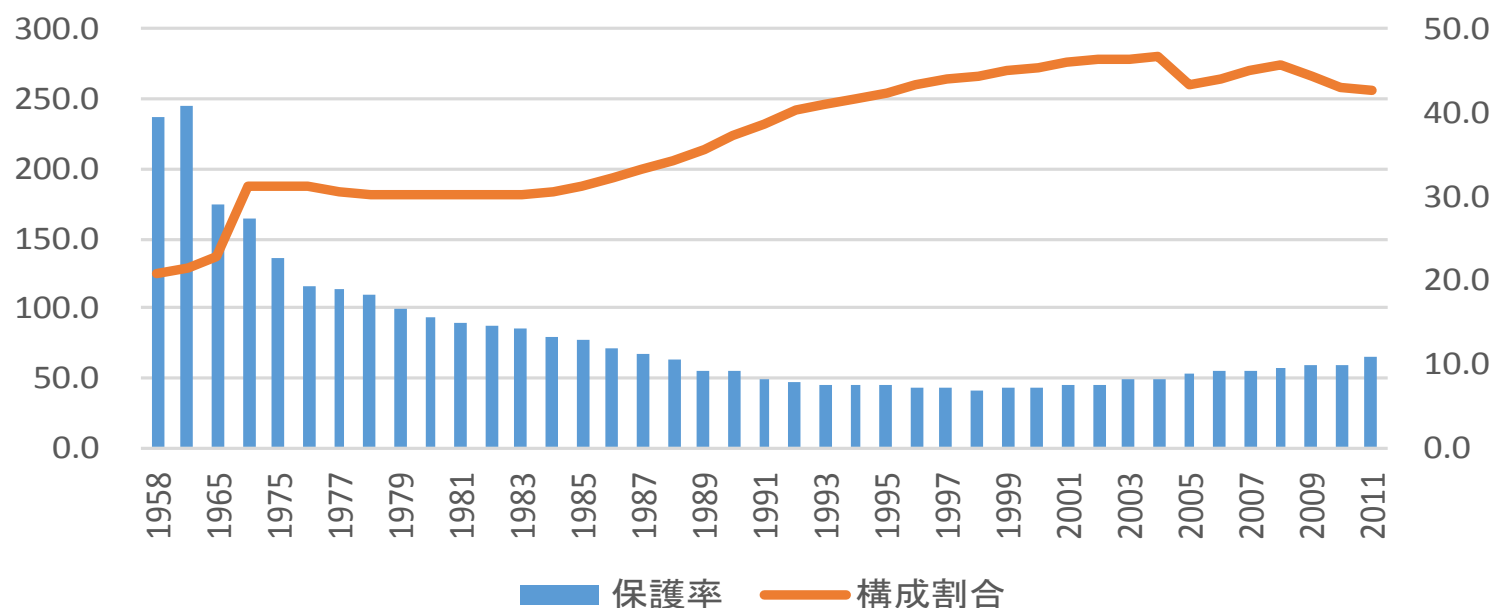


図 年齢階層別 貧困率と生活の苦しさ意識(%)

出所)「国民生活基礎調査」(各年)、白波瀬・竹内(2009)図5(p.270)より。

高齢層の相対的貧困率は低下したが、被生活保護世帯の半数近くは高齢世帯

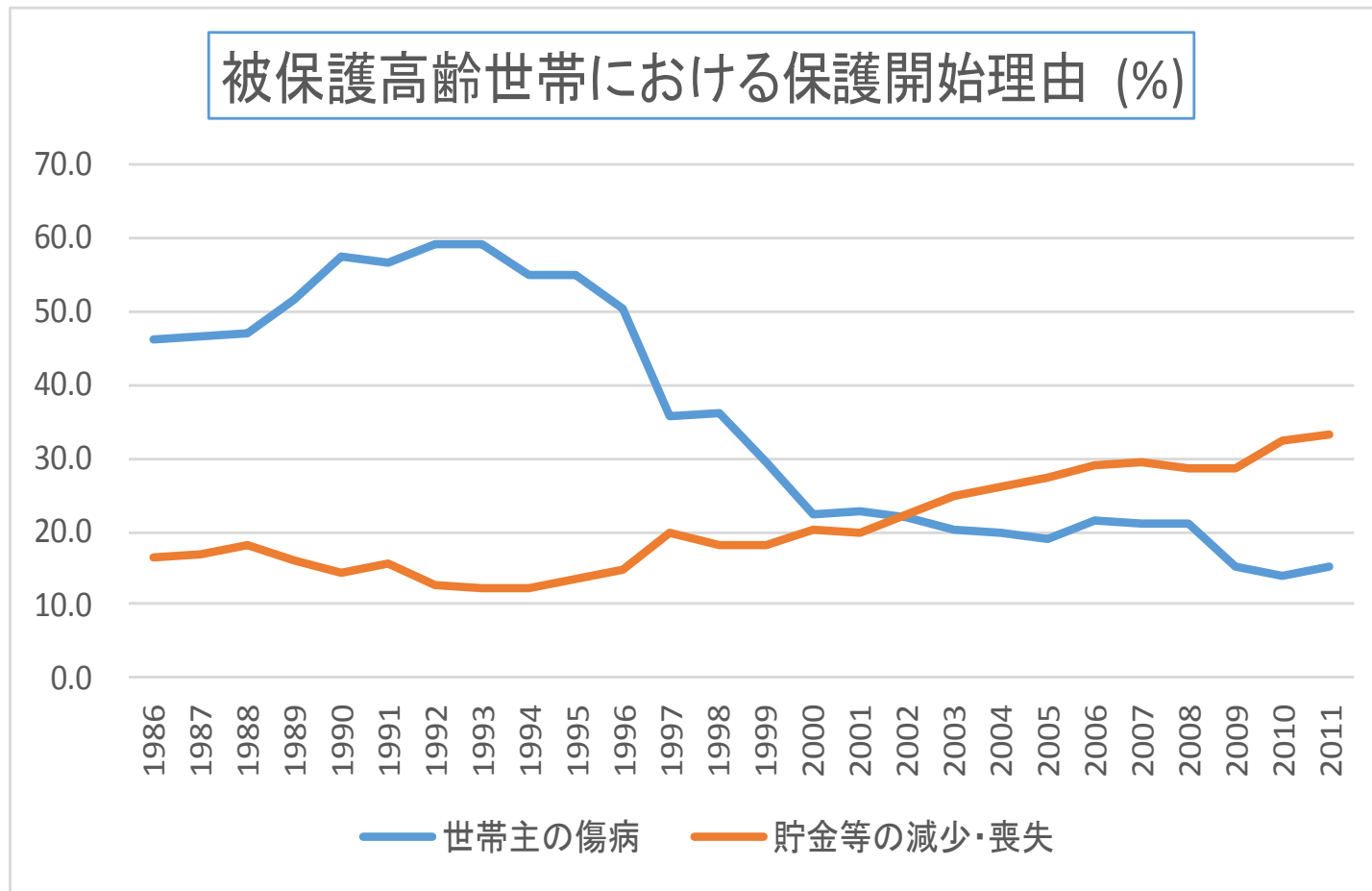
高齢世帯保護率と被保護世帯に占める高齢世帯割合の推移グラフタイトル



出所) <http://www.ipss.go.jp/s-info/j/seiho/seiho.asp> 2014年5月25日アクセス

注) 世帯保護率は、被保護世帯数の各世帯数を「国民生活基礎調査」の各世帯数(世帯千対)で除したもの。2011年には岩手県、宮城県及び福島県は含まれない。

被保護世帯への移行を留まらせる「貯え」が無い者の増加



出所) <http://www.ipss.go.jp/s-info/j/seiho/seiho.asp> 2014年5月25日アクセス

年齢によって分断された社会システムから年齢を超えた柔軟かつ有機的な社会システムの構築に向けた高齢者の積極的位置づけ

- 若年層から高齢期に向けてある程度の「溜め」を確保できる複線的生活保障システムの構築
 - 非正規/正規間のギャップを埋めて、複線的働き方の実現を通して、溜めをゼロにしない人生設計を支援するしくみ
- 高齢層の規模の拡大と共に、高齢層内の多様性が広まる。
 - 身体的老化に伴う、機能代替(支援)の方策:ICTの積極的活用
 - 蓄積された技能・スキル(熟練)という側面の優位性
 - 次世代育成への貢献
 - 年齢に関わらない自己実現